

今週の聖句

ただで受けたのだから、ただで与えなさい

マタイによる福音書 10章8節

ねらい、説教作成のヒント

- ・ 神さまを求める人々（失われた羊）へ、神さまが共にいてくださることを伝える人々の派遣のありさまは、私たちも派遣されていることを伝えたい。
- ・ お金では替えることのできない救い・平安（平和）の喜びを、惜しみなく与えるように願っているイエスさまの言葉を心にとめたい。

豆知識

- ・ 「使徒」...遣わされたのは無学な普通の人(使徒 4:13)であった。
- ・ 「平和があるように」...もともと「シャローム」(平和)というユダヤ人の普通の挨拶であったが、聖書はその元の意味を重く見、主の与えられる平和(ヨハネ 14:27)として考えている。

説教

この世の中のものほとんど所有者があります。でも、だれのものかわからないものがたくさんあります。水、空気、光、海の水、地球(いろいろ考えてみると面白い)などは、だれのものでしょう。皆さんのいのちは誰のものですか？ 多くの人は、自分のものは自分のものだと思えますが、神さまは、あなたは、私のものだとお答えになります。わたしを、あなたをおつくりになり、いつも見守って愛してくださっています。でも、私たちは、神さまを見失ってしまうことがあります。神さまが、見えない時があります。イエスさまは、そのように思ったり、感じたりしている人々に、神さまの国についてお話しされ、お弟子さんたちをお遣わしになります。病いの中にいる人々は、悲しみの中にある人々は、力を失っていたのでした。そのために、神さまが、私たちに、ちゃんとそばにいて、結びついていてくださることを、お弟子さんたちを通して知らせようとなさいました。あなたのいのちは私のものだということを聞いた力を失った人々は、大きな勇気と平安を与えられたことでしょう。「死んだ人が生き返り」「病気の人が回復し」「差別を受けていた人は生きる安心」が与えられたのです。この知らせを惜しみなく伝えなさい、いっぱい繰り返し伝えなさいというのです。「死」「病気」「差別」をなくすことは、人間の力ではできません。これは神さまの力でやることです。

「ただで受けた」という「ただ」は、「無料で」ということではなくて、賜物という意味です。神さまの与えてくださった賜物で、人々にしなさいということです。皆さんには、たくさんの神さまから与えられた賜物(Gift)があります。神さまの言葉を知っている皆さんは、喜んで、分かち合う心が育っています。自分に与えられているものを独り占めして使ったら、初めは気持ちがいいかもしれませんが、しかし、みんなで分け合って使い始めたら、みんなの喜ぶ顔や気持ちが伝わってきて、もっと、嬉しい気持ちになることでしょう。

こんなお話を聞いたことがあります。フィリピンの家に招かれた人が、お食事の時に魚を出されて、それを食べなさいというのです。遠慮していたら、「さあ、食べなさい」言われて、一口食べたら、手をたたいて喜んだそうです。そして、もっと、食べなさいと勧められて、もう一口、もう一口と食べるたびに手をたたいて喜んで、全部食べたら、大喜びだったそうです。その後の家族は、水を飲んで夜を迎えたそうです。人に食べ物を与え、喜んで、その喜びが、彼らの空腹を満たしたのでし

た。生きる力を失った人々へ、イエスさまは、私たちを、賜物を使って、私たちを遣わすのです。

### 分級への展開

さんびしょう

\* 讚美歌は ” こどもさんびか ” (日キ版) より

85番

改訂137番

話してみよう

- ・ 12人のお弟子さんの名前を言ってみよう。
- ・ イエス様は、今の世界をみられて、どう思われるでしょうか？  
「収穫は多いが、働き手が少ない」と言われるでしょうか？
- ・ 私たちも、お弟子さんの様に、イエス様の御用のために働けるかな？

やってみよう

ねらい 12弟子について知らせる。

- ・ 弟子の名前を知らせ、ぬりえをする。
- ・ 弟子の顔を描いた絵カードと名前を書いた字カードを作り  
絵合わせゲームをする。
- ・ 大きくコピーして、お面にもできるよ！

引用 『ぬりえ&ゲームブック 新約編』 シーアール企画 ¥280



暗唱聖句

話すのは、あなたではなくあなたの中で語ってくださる父の霊である。

マタイによる福音書 10章20節

ねらい、説教作成のヒント

- ・ 逆境の中におかれるとき、人は、うろたえ、言うべきことを忘れ、不安に陥るが、子どもたちも、将来の経験において、一人ぼっちを経験するに違いない。神が共にいることをしっかり伝えたい。
- ・ イエス自身が、その経験を死の極みまでし続けた。神と共にいる信頼が、生きる根拠になっていることを伝えたい。

豆知識

- ・ 「1アサリオン」...1デナリオン(労働者の一日の平均賃金)の1/18.
- ・ 「ベルゼブル」...本来の意味は「君であるバアル」。ここでは悪霊たちの首領の意味。

説教

多くの人が賛成する中で、自分の意見を言えずに、黙ってしまうことはありませんか。(あるいは、多くの人が見ていない部分を、自分が指摘したりして、黙ってしまうこともある)例えば、戦争はいけないということは誰も、知っていることですが、戦争の時に、多くの方は、してはいけないと言うことはできませんでした。それどころか、戦争を！戦争を！との声が大きくなっていったのです。平和な時に、人を殺してはいけないとか、いのちを大事にしなければいけないと言えますが、それがわかっていても、正しいと思えることが言えなくなる時もあるのです。(そのような例を、教師は探すことはできるでしょう)クラスの中でも、みんながそうだ！そうだ！と言っている時、自分だけ違ったことを言うのは、とても勇気がいるし、もし、これを言ったら、他の人が、この私と話してくれなくなったり、友達でいてくれないと思ったりして、これからのことを心配してしまうことがあります。

村八分というのを聞いたことがありますか？火事と葬式だけの二つ(二分)を残して、それ以外のすべてのことは、付き合いをしてくれないのです。挨拶もです。どんな人間も、仲間外れにされて生きていくには、大変な勇気がいることでしょう。ですから、こんなことをされそうになれば、正しいと思ったことも、言えなくなってしまって、口をつぐんでしまうことがあることでしょう。

お祈りして、神さまの願っていることを行おうとする時に、そのまま実行できるだろうか、そして、「いま」言わなければならない時に、言っているのだろうかとか、人が理解してくれるだろうかとか、心配し、とても、人の目を気にすることがあることでしょう。不安になったりするそんな私たちに、いつも語りかけてくださいます。あるいは、もし、いじめられている人を見たり、困っている人を見たりした時に、その人のそばに立つこと、一緒にいたりすることは、イエスさまの願うことだと思います。こんな時に、「何をどう言おうかと心配してはならない」とイエスさまは、お話しくださいます。「心配してはならない」というのは、「安心していいです」という言葉です。神さまは目には見えません。しかし、神さまは、ちゃんと、そばにいて、あなたを見守り支えてくださるのです。一人ひとりには、神さまが与えてくださっている豊かな「恵み」と「力」があります。神さまのお心をこの世界に表わすために、私たちは、用いられます。神さまのお心が、私たちの中にあります。「小さい

人」(10:42)と(「小さい」とは語る人がよく黙想して、その人の言葉で語ってほしい。世の中で、心にとめられることのない人、悲しみや、苦しみの中におかれた人など、さまざまに考えられることでしょう)一緒に、生きようとするイエスさまは、この私たちにも、支えを与えていただきます。

### 分級への展開

さんびしよう

\* 讚美歌は「こどもさんびか」(日キ版)より

102番

改訂96番

話してみよう

- ・「蛇のように賢く、鳩のように素直に」とは、どういうことでしょう。
- ・他にも動物がでてくる聖書の箇所をさがしてみよう。
- ・迫害とはなんでしょう？今の私たちに迫害はありますか？

やってみよう

ねらい 「神の国・神の義」を耳に慣らせる

「神の国と神の義を」を歌う。

何度も歌い、自然に言葉を覚える。

大人がリードして輪唱する。

かみ くに かみ き  
神の国と神の義

かみのくにと かみのきを ますもとのま さ い

をうたればみな あたえられる ハレ ルハレ ルヤ

暗唱聖句

わたしのために命を失う者は、かえってそれを得る

マタイによる福音書 10章 39節

ねらい、説教作成のヒント

- ・ 神の愛に生きようとするとき、「神を神とする」時「隣人を愛しなさい」と聞く時、何を軸に人間は生きようとするのかを考えてみたい。
- ・ シャロームはたんなる人間関係の「あいさつ」ではないことを、心に感じたい。
- ・ これはイエスの逆説でもある。剣の逆は何かを考えてみたい。

豆知識

- ・ 「平和」...一般的なユダヤ人の考えでは、メシア到来の前には苦難が増し加わるが、メシアそのものは私たちに恵みをもたらすと考えていた。それは呼和の君(イザヤ 9:5)と唱えられるべきお方である。主の誕生に際して、天軍は「天に栄光、地に平和」(ルカ 2:14)と歌った。ところが、主は地上に平和をもたらすためではなく、剣をもたらすために来たと言われた。主の与えられる平和は、世が与えるように与えられるものではなかった(ヨハネ 14:27)。表面的な、差し当たり対立のない状態というのではなくて、神との平和はむしろ人々の心に鋭く突き刺さり、分裂さえも起こさせる。腐敗した民の中では、ミカ 7:6 に示されたような分裂や戦いも起こる。そして神を神として、何ものにも増して恐れかしこむことが求められる。

説教

「剣」というのは、戦い・争いを表すしるしです。剣をもたらすとは、戦おうとする気持ち生まれ、争おうとすることです。イエスさまは、「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだと思っ  
てはいけません」とおっしゃいました。「平和ではなく剣だ」というのです。私たちが知っているイエスさまは、優しく、だれとでも仲良くしなさいとおっしゃられる方ですが、今日の聖書の言葉は、いつものイエスさまではないような気がします。教会学校に集う皆さんは、だれも、仲良く楽しく生活したいと思っていますでしょう。けんかが大好きな人はいないでしょう。けんかをしてしまうことがあっても、好んでけんかをしたいと思っている人はいないでしょう。思い出してください。(ここで、語る人の経験を加えてもいい)けんかをした後の気持ちは、よいものでいられるでしょうか。それにしても、イエスさまの言葉は、不思議です。(一緒に考える機会が長ければ、それに比例してイエスの語る意味について深く理解するきっかけになる)

「シャローム」って聞いたことがありますか。「平和」という意味です。誰に対しても、「平和がありますように」と語るあいさつは、偏らないみんなの平和を求めていることです。イエスさまは、語られたこの平和は、自分のグループ(家族・身内・さまざまな自分関わる関係しているグループ)内だけの平和だけではなく、グループを超えて、よそのグループにもシャロームの状態にあることを望まれるのです。これが『キリストの平和』です。家庭や教会の中だけが平穏であっても、それはいつもの「平和」であって「キリストの平和」ではありません。自分の家庭以外のよその家庭・共同体、広くは全世界の人々が全て抑圧されていない状態にあることです。「神さまの正義」「神さまの望まれ

ること」が行われていること、これが「キリストの平和」の意味です。

イエスさまが、このことばを話された時は、どんな時かといいますと、お母さんや兄弟たちが来て、イエスさまが「気が変になっている」と連れ戻しに来たんです。弱い立場の人たちの側に立って、神さまのことを伝えていたのですが、お母さんや兄弟は、その時には、イエスさまのしていることがわからずにして、イエスさまのお母さんではなくなっていたんです（肉親も、神の望まれている愛に生きることは理解でしなかった、ここは少し難しいかもしれない）。人間の絆は、大切ですが、新しい神さまに結ばれた結びつきを今ここでお話しくださったのです。

### 分級への展開

さんびしよう

\* 讚美歌は「こどもさんびか」（日キ版）より

5番

改訂49番

話してみよう

- ・自分の十字架ってなんだろう？
- ・私たちにも、受け入れることができるでしょうか。

やってみよう

ねらい 自分が一番という生き方ではなく、イエスさまが一番という生き方を知らせる。

自分にとって一番大事なものは何か？ 自分の宝物などを、発表・披露する。

「イエスさまがいちばん」を歌い、教会で一番の物を知らせる。

2 イエスさまがいちばん 詩 若島和夫 曲 松園和弘

① どんなにさびしい ときにも どんなにかたしい ときにも  
 ② どんなにさびしい ときにも どんなにかたしい ときにも  
 ③ どんなにさびしい ときにも どんなにかたしい ときにも  
 ④ どんなにさびしい ときにも どんなにかたしい ときにも

イエスさまがいちばん イエスさまがいちばん ねーえそ  
 が どんなにさびしい ときにも どんなにかたしい ときにも  
 イエスさまがいちばん イエスさまがいちばん ねーえそ  
 のー ねーえそ イエスさまがいちばん

① どんなにさびしい ときにも どんなにかたしい ときにも  
 ② どんなにさびしい ときにも どんなにかたしい ときにも  
 ③ どんなにさびしい ときにも どんなにかたしい ときにも  
 ④ どんなにさびしい ときにも どんなにかたしい ときにも

（？）  
 ① どんなにさびしい ときにも どんなにかたしい ときにも  
 ② どんなにさびしい ときにも どんなにかたしい ときにも  
 ③ どんなにさびしい ときにも どんなにかたしい ときにも  
 ④ どんなにさびしい ときにも どんなにかたしい ときにも



※ 高松めぐりて聖蹟を尋ねていた若島くし、スランパにお  
 せられたときと聖蹟のことばが頭に浮んできた。〈まず神  
 の国と神の義を求めなさい。そうすればすべてのものは  
 与えられるであろう〉そしてこの語がすらすらでてきた。  
 大学受験をむかえていた若島くし、この語をよんで心に  
 むかえられた。この名曲が生まれた。

暗唱聖句

わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである

マタイによる福音書 11章 30節

ねらい、説教作成のヒント

- ・ イエスさまのくびきは、私たち一人ひとりのために作られていることを伝えたい。
- ・ もし、友が苦しい目に合っていることを教会学校の子どもたちが知ったら、それを伝える者として、友の傍らに立つように、伝えたい。

豆知識

- ・ 「知恵ある人や賢い人」...世間的知恵があって高慢な人を指す。ここでは特に律法学者やファリサイ派の人々。

説教

教会学校の皆さんの中には、工作が好きな人もたくさんいることでしょう。きっとその人は、いろいろなものを工夫して、上手に作ることでしょね。

さて、イエスさまは、お父さんの仕事を小さい時から見ていました。それを学んで受け継いできました。職業は、大工さんです。木を用いて、大変上手に、いろいろなものを作っていたことでしょう。今日聖書の言葉にありました「くびき」というのも仕事で作っていたものの一つでした。それは、家畜である牛や口バに荷物を引かせるために、その背中に引掛ける横の木を言います(絵や図を示してもいい)。車台を引かせたり、畑を耕作するために掘り起こす器具を、牛や馬の背中に背負わせるものです。背中の形にうまく合わせて作らないと、背中にずれが起こり、皮膚を傷つけ、筋肉や骨を傷めてしまいます。大変な負担を動物に背負わせることになることでしょう。一頭一頭ごとに、うまく合わせて作るのが、腕のいい大工さんです。「わたしのくびきは負いやすい」とイエスさまがお話されたのは、作ってきた経験からだったのでしょう。

イエスさまのこの時代は、人々が貧しいばかりではなく、生活の中にもいろいろな決まりや守らなければならないことがたくさんありました。人々は、そんな生活の中で、決まりを守ることや生活の貧しさの中で、苦しみあえていたのです。(子どもたちの中にも、身近なところで、苦しみを持つ経験があるに違いない。教師は、子どもたちと接する感性から、それぞれの立場から、子どもの生活を反映させて、その経験を身近な形で述べることができるかもしれない)ちょうど、それは、生活の中で感じるずっしりと重たい荷物のようなものでした。みんなの心にも、体にもものしかかっていたのです。「ああしなさい。こうしなさい」と命令されたりすることは、自由を奪われて、苦しい感じがしませんか。また、一生懸命働かねばならないということだったら、初めはよくても、つらい気持ちになることでしょう。

教会って? どんなどころって、聞かれたら、皆さんはどう答えますか。イエスさまが、すべての人を招かれたように、どんな人も来ていいところです。そして、そこでは、心の平安が与えられるところです。もし、疲れたら、休みが必要です。教会は、疲れた人も招かれていて、そこに休む場所があります。そして、力を与えられて出かけていく場所です。イエスさまは、それぞれに、ちょうどいい

「くびき」を用意して下さっています。

分級への展開

さんびしよう

\* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

61番

改訂130番

話してみよう

- ・「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」とありますが、このような体験がありますか？
- ・「疲れた者（人）」「重荷を負っている者（人）」ってどんな人のことかな？
- ・「くびき」って何だろう？調べてみよう。

やってみよう

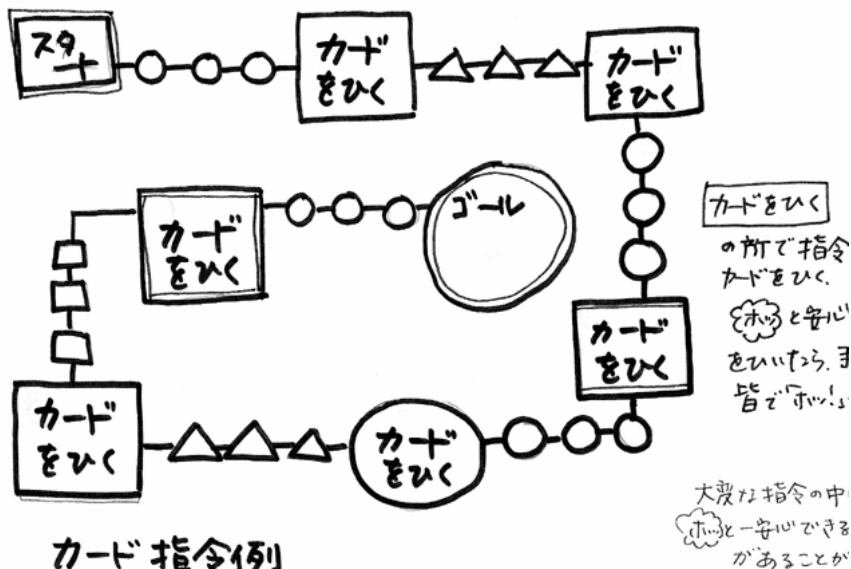
ねらい どんな時にも、ホッとできる所がある事を知らせる。

すご六を作る。

指令カードを用意しておき『カードを引く』マスで1枚引く。

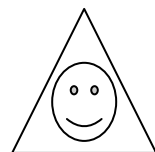
さいころ・コマなど準備する。もちろん、手作りも楽しい！

### <手作りすご六例>



### カード指令例

- ・ その場とび10回
- ・ なまえをしり文字
- ・ 片足立ち10秒
- ・ 誰か、どこかの所まで行ってタッチしてくる などなど…





暗唱聖句

あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった  
マタイによる福音書 13章8節

ねらい、説教作成のヒント

- ・ イエスさまが語られた種のたとえば、私たちの心にしっかりとまかれていることを自覚的に教師は語ってほしい。それによって、子どもは、自分の種を育てるに違いない。

豆知識

- ・ 道端は人がしばしば通るので踏み固められた地で、種を深く受け入れられない場所を指す。
- ・ 当時のパレスチナの種まきと日本での種まきの相違は、土地を耕してよく準備してから蒔くのと、一面に種をまき散らしてから耕すというのが相違。

説教

この春、ヒマワリの種を植えました。(語る人の経験を用いるとよいかもしれない。CS で、種まきを試みることもいいかもしれない)発芽させるために、水の中に種を入れてよく吸わせ、肥料を混ぜて用意したプランターに種を二・三粒づつ種をまいて、土をかぶせました。さあ、今年の夏が楽しみです。種は、小さいものですが、大きく育ってくれることを期待しています。

イエスさまは、わかりやすくてたとえでお話をされました。それは、種がどんなところに落ちたか、そして、それがどんな成長をしたかを、お話してくださいました。道端に落ちた種は、鳥が来て食べてしまいました。石だらけのところに落ちた種は、根がないために枯れてしまったのです。いばらの間の種は、ふさがれてしまいました。ちょうどよい場所に落ちた種は、素晴らしい成長を遂げたのでした。この種は、神さまの言葉です。

私たちの心は道のように固くなっていては、神さまの言葉をうけつけません。やわらかい心が、神さまの言葉を素直に聞くことができるのです。

教会学校に通う皆さんに、神さまの種が、たくさんまかれています。皆さんの心の中には、その種があって、やがて、種という形はなくなって、大きく育って、芽になったり、葉になったり、花になったり、大きな実がなっていくます。神さまの国というのは、すごく大きな成長の可能性を見せるんです。三十倍、六十倍、百倍にもなったりします。皆さんの心の中に神さまの働きが始められています。

種をまいた後にすることは何も無いような気がします。聖書にも、「成長させてくださるのは神です」とあります。でも、私たちは、このために、「お祈り」をしようではありませんか。

アッシジの聖フランチェスコの生涯の中に、こんな話があります。ある町の門(中世の町は城壁に囲まれ、町の出入りには門を通らなければなりません)の上で、悪魔達が昼寝をしていました。また別の町の門の上では、悪魔達が勢踊り騒いでいました。そこで聖人は尋ねてみました。「どうしてお前さんたちは昼寝をしているのかね」。すると悪魔はこう答えました。「何もすることがないからさ。この町の人たちは、些細なことで年明けがみ合い、争っているんだ。だからおれ達は何もする

ことがないのさ」。聖人はもう一方の悪魔に尋ねてみました。「どうしてお前さんたちはそんなにうるさく騒いでいるのかね」。すると悪魔はこう答えました。「この町の人にはよく神様のことばに耳を傾け、いつも正しいこと、善いことをしようとするんだ。おれ達がうかうかしていると、居る所が無くなってしまふんだ。だから神のことばに気づかせないように、一所懸命邪魔しているんだ」。神さまの種を大切にしましょう。

分級への展開

さんびしよう

\* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

71番

改訂56番

やってみよう

ねらい 知らせるのは種と地の関係に留めて、植物は成長するには何が大事かを考えさせる  
実物の花を見せて、この花は、どんな所で育ったのか聞く。  
花の種は、どのように成長するか絵や図鑑などで示す。  
種を蒔く場所について、聖書のことばと照らし合わせて応答しながら進めていく。